

ICDAHHDの成長性を分析

愛知淑徳大生 向井社長の前で発表

【三重】愛知淑徳大学の学生が、授業の中でホンダ販売店などを傘下に置くICDAホールディングス（HD、本社鈴鹿市）の企業分析に取り組み、このほど向井弘光社長ら同社関係者の前で発表を行った。

授業は、ビジネス学部現



企業分析発表の感想を述べる
向井社長

代ビジネス専攻ビジネスアカウンティングコース3年生の必須科目「企業分析プロジェクト」を全15回で経営分析を学んだ後、有価証券報告書などをもとに実際に企業分析を行う。同社では昨年11月、分析の参考にしてもらおうと、同大で会社説明と自動車リサイクル拠点のバーチャル工場見学を実施している。

学生は6グループに分かれて発表した。強みや弱みを分析するSWOT分析を行ったグループは、新車販売からリサイクルまで手掛ける独自のビジネスモデルなど多くの強みを持つと評価する一方、脅威として自動車を取り巻く環境の激変や、主要仕入れ先のホンダが売れる車を作り続けられるかを挙げた。収益性を分

析したグループは、ROE（自己資本利益率）を分解し、同業他社との比較を行った。

このほか、安全性と事業リスク、成長性とキャッシュフロー、会社四季報の予想精度、株主還元策と株価などのテーマで分析。向井社長は「いい分析をしても

らえた。これからも注目をしてほしい」と話した。

発表後、向井社長の講演も行われた。複合型店舗「オートモール」や自動車リサイクル拠点立ち上げの体験談を披露し、「人生の目標を持つべき。壁にぶつかった時、それは必ず糧になる」と強調した。